

石狩小学校円形校舎【いしかりしょうがっこうえんけいこうしゃ】

昭和 31（1956）年7月に完成した北海道で二番目の円形校舎。当初の計画では木造平屋の建物でしたが、受注した大成建設株式会社が鉄筋二階建ての円形校舎のプランを提示したことから計画が変更されました。しかし、工事費が2倍近くになることもあって町議会で問題となりました。工事費の不足分は町民からの寄付でまかなうことになり、予算案は昭和 30 年 12月に可決され建設が決まりました。

完成した石狩小学校は、市内で最初の鉄筋コンクリート造の校舎であり、水道（簡易水道）が設備された学校となりました。

円形校舎は、全国でも昭和 30 年代を中心に盛んに建設されました。廊下や壁が節約でき、鉄筋コンクリート造でありながら比較的安価に建設できることや、狭い敷地でも建設可能であったこと、円形のため採光が理想的であったことなどの利点がある理由です。北海道では昭和 31 年 6 月に完成した北村村立北村中央小学校が最も早く、一ヶ月遅れで石狩小学校が完成しています。道内の円形校舎はほとんどが取り壊されるか学校以外の用途で使用されており、学校として使用されている円形校舎は石狩小学校のみとなっています。

本町地区の住民は円形校舎を「缶詰校舎」と呼んでおり、平成 15（2007）年の石狩小学校開校 130 年記念式典の際は、円形校舎の写真を貼った鮭缶が記念品として配られました。

（工藤義衛）

参考文献

鈴木トミエ(1996)「第74話 円形校舎の石狩小学校」石狩百話 石狩町

川島智生(2002)「寄稿・小学校建築の近代(20)」建設通信新聞 2002年11月21日号

三河智子ほか(2003)「北海道の円形校舎について」日本建築学会北海道支部研究報告No.

76



石狩小学校円形校舎落成式